

令和 8 年度 昭島市立清泉中学校
国語 年間指導計画・評価規準〔第 3 学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1 学期	4	1	世界はうつくしいと	1 詩を通読できるようにする。 2 詩を読み深めることができる。 3 詩の特徴を生かして朗読できる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)		【態】進んで語感を磨き、友達のかえや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
		4	握手	1 作品を通読できるようにする。 2 作品の設定を捉えることができる。 3 登場人物の人物像を読み取ることができる。 4 登場人物の心情を読み取ることができる。 5 読み深めた感想を交流できるようにする。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。(C(1)イ)	【態】粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。
		1	【聞く】 意見を聞き、適切さを判断する	1 坂本さんのスピーチの練習を聞くことができる。 2 スピーチをよりよくするための助言を考えることができるようにする。 3 学習を振り返ることができる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(1)イ	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)	【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
		1	季節のしおり 春	・春の気象にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ和歌や短歌、俳句、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむことができるようにする。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)		【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
		2	学びて時に之を習ふ ——「論語」から	1「論語」という作品について知ることができる。 2「論語」を読み、孔子の考え方を読み取ることができる。 3 日常生活や自分の生活を振り返り、	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。
	5	3	説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす	1 話題を決め、情報を集めることができる。 2 話の構成を考えることができる。 3 スピーチの会を開く。 4 交流することができるようにする。 5 学習を振り返ることができる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
		3	文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する	1 4, 5人のグループで編集会議を開くことができる。 2 紙面構成を考えて下書きをすることができる。 3 下書きを読んで助言し合い、清書することができるようにする。 4 冊子にまとめ、読み合うことができる。 5 学習を振り返ることができる。	【知・技】文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)	【態】進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し文章にまとめようとしている。
		1	言葉 相手や場に応じた言葉遣い	1 導入の例を読み、相手や場に応じた言葉遣いについて関心をもつことができる。 2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解することができる。 3 相手や場に応じた表現について理解することができる。 4 学習を振り返ることができる。	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)		【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
	6	3	作られた「物語」を超えて	1 全文を通読することができる。 2 筆者の問題意識(話題)を捉えることができる。 3 筆者の主張と論理の展開を捉えることができる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の構成や論	【態】進んで文章の構成や論理の展開のしかたについて評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。
		1	思考のレッスンの準備 具体化・抽象化	1 P50の教材文を通読することができる。 2 P51の教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解することができる。 3 学習を振り返ることができる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)		【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして課題に取り組もうとしている。
		2	思考のレッスン 具体化・抽象化	1 話題を決めて、情報を集めることができる。 2 話の構成を考えることができる。 3 スピーチの会を開く。 4 学習を振り返ることができる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ)	【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとしている。
		1	漢字に親しもう	1 新出漢字を確認することができる。 2 練習問題に取り組むことができる。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)。		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		1	文法への扉 すいかは幾つ必要?	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認することができる。 2 P212「文法1 文法を生かす」を読み、文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認することができる。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。(2年(1)オ)		【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。

		3	論理の展開を意識して書く グラフを基に小論文を書く	1 課題に沿って材料を集めることができる。 2 構成や内容を考えることができる。 3 小論文を書くことができるようにする。 4 交流することができるようにする。 5 学習を振り返ることができる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(0(1)イ) ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(0(1)ウ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて進んで評価し、学習課題に沿って報道の文章を比較し、考えをまとめようとしている。
		3	俳句の可能性 俳句を味わう 【書く】俳句を作って楽しむ	1 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読することができる。 2 本文を読み、俳句についてまとめることができる。 3 P75「俳句を作って楽しむ」に取り組むことができる。 4 学習を振り返ることができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) ・文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や表現のしかたについて評価している。(0(1)ウ) ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
		2	言葉の釣り糸を垂らす	1 全文を通読することができる。 2 題名の意味を捉えることができる。 3 筆者のものの見方や考え方について考えることができる。 4 文章を読んでよいと思ったところを話し合うことができる。 5 学習を振り返ることができるようにする。	【知・技】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ)		【態】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、試行錯誤しながら相手や場面によって言葉を選んで話そうとしている。
7	1	1	言葉 和語・漢語・外来語	1 教材文の導入の例を基に、和語・漢語・外来語から受ける印象の違いについて考えることができる。 2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混雑語について理解することができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)		【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。
		1	読書を楽しむ	1 ささまざまな読書の楽しみ方について知ることができる。 2「ブックトーク」、「読書会」、「読書生活をデザインする」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てることができる。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出することができる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) 一さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。		【態】進んで読書の意義と効用について理解し、見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
		1	「私の一冊」を探しにこう 羊と銅の森 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム ためになるってどんなこと？	1 教科書本文を通読し、本のさまざまな探し方について知ることができる。 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味がもてそうな本を探すことができる。 3 見つけた本を夏休みに読み、書評やポップを書くことができる。 4 インターネットなどから自分が選んだ本の書評やポップを検索し、自分の書いたものと比べてみるることができる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解しようとしている。(3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを上げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(0(1)エ)	【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。
		1	季節のしおり夏	・夏の気象にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ和歌や短歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむことができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)		【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
		2	挨拶 ——原爆の写真によせて	1 作品を通読し、当時の時代背景について確認することができる。 2「随」という表現を捉えることができる。 3 表現の効果を評価することができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(0(1)ウ) ・「読むこと」において、詩を読んで考えを	【態】詩の構成や表現のしかたについて積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
9	5	1	故郷	1 作品を通読し、作品の設定を捉えることができる。 2 場面や登場人物の設定に着目して読み取ることができる。 3 作品を批評することができる。 4 学習を振り返ることができる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(0(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで考えを上げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(0(1)エ)	【態】粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
		1	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	1 対談の準備をすることができる。 2 対談を行うことができる。 3 学習を振り返ることができる。	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを上げたり深めたりしている。(A(1)エ)	【態】粘り強く話の展開を予測しながら聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとしている。
	9	1	【推敲】論理の展開を整える	1 P116上段の文章を通読し、下段の課題に取り組むことができる。 2 学習を振り返ることができる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認めて、文章全体を整えている。(B(1)エ)	【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確かめ、情報と情報との関係の知識を生かして推敲しようとしている。
		1	言葉 慣用句・ことわざ・故事成語	1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出すことができる。 2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解することができる。 3 学習を振り返ることができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)		【態】積極的に慣用句やことわざ、故事成語を理解し、今までの学習を生かして短文を作ったり調べたりしようとしている。

2 学 期	10	1	漢字 漢字の造語力 漢字に親しもう	1 導入の文章を読み、新しい日本語が考へ出された経緯を知ることができる。 2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知ることができる。 3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめることができる。 4 P122「漢字に親しもう3」の問題に取り組むことができる。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		4	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う	1 文章の要旨を捉えることができる。 2 文章の比較を基にグループで討論し、考えを広げることができるようにする。 3 自分の考えを文章にまとめることができる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(0)1イ)	【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
		4	多角的に分析して書く 説得力のある批評文を書く	1 批評文について知り、題材を選ぶことができるようにする。 2 観点を決めて分析することができるようにする。 3 構成を考えることができるようにする。 4 推敲して仕上げることができる。 5 学習を振り返ることができるようにする。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(0)1イ) ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(0)1ウ)	【態】粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書くようとしている。
		1	漢字に親しもう4	1 新出漢字を確認することができるようにする。 2 練習問題に取り組むことができるようにする。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		1	【議論】話し合いを効果的に進める	1 卒業文集のテーマ設定についての話し合いの例を聞き、論点を整理することができる。 2 テキストの口の欄に当てはまる発言を考えることができる。 3 学習を振り返ることができる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(0)1オ)	【態】積極的に進行のしかたを工夫し、学習したことを生かして効果的な話し合いについて考えようとしている。
		4	合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く	1 合意形成の重要性を知り、課題を見つけ、議題を決めることができる。 2 グループで具体的な提案を考えることができる。 3 学習を振り返ることができるようにする。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(0)1オ)	【態】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
	11	1	聴き渡る 初恋	1 言葉の響きやリズムを味わいながら「初恋」を朗読することができる。 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合うことができるようにする。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き、語彙を豊かにしている。(1)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、詩の構成や展開、表現のしかたについて評価している。(0)1ウ)	【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読したり自分の考えを述べたりしようとしている。
		1	季節のしおり 秋	・秋の気象にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ和歌や俳句、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむことができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)		【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
		1	和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序	1「和歌の世界」を読むことができるようにする。 2「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像することができる。	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)		【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
		3	君待つと ——万葉・古今・新古今	1 和歌を声に出して読むことができる。 2 和歌の世界を味わうことができる。 3 心に響いた和歌を一首選び、鑑賞文を書くことができるようにする。 4 学習を振り返ることができる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(0)1ウ)	【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、見通しをもって鑑賞文を書くようとしている。
		4	夏草 ——「おくのほそ道」から 【書く】古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう	1 作品を朗読することができる。 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取ることができる。(学習②) 3 心に響く俳句について発表する。(学習③) 4 学習を振り返る。 5 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。 6 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(0)1エ) ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(0)1イ)	【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。
		1	古典名句・名言集	1「古典名句・名言集」を朗読することができるようにする。 2 気に入った名句・名言を選ぶことができる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)		【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かして朗読したり書き出したりしようとしている。
	3	それでも、言葉を	1 筆者の考えを確認しながら全文を通読することができる。 2 筆者の考え方について話し合うことができる。 3 自分の考えをまとめることができる。 4 学習を振り返ることができる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(0)1エ)	【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。	
		2	情報を読み取って文章を書く グラフを基に小論文を書く	1 グラフから情報を客観的に読み取り、自分なりの問いを立てて分析することができるようにする。 2 構成や内容を考えて小論文を書き、助言し合うことができる。 3 学習を振り返ることができる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(0)1オ)	【態】論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえて粘り強く推敲し、学習の見通しをもって小論文を書くようとしている。

3 学 期	12	1	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう5	1 二年生までに学習した漢字を復習 することができる。 2 三年生で学習した漢字を復習する ことができる。 3 P176「漢字に親しもう5」の問題に取 り組むことができるようにする。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢 字に加え、その他の常用漢字の大体を 読んでいる。また、学年別漢字配当表に 示されている漢字について、文や文章の 中で使い慣れている。((1)ア)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を 読んだり書いたりしようとしている。	
		1	文法への扉2 「ない」の違いがわからない？	1 教材文を読み、「ない」の文法上の 違いを理解することができる。 2 P215「文法2 文法のまとめ」にある 文法の問題に取り組むことができる。 ・三年間の文法の学習を思い出し、文 の組み立てや単語の種類と働きなど について復習することができる。	【知・技】単語の類別について理解すると ともに、単語の活用、助詞や助動詞など の働きについて理解している。(1年(1) エ、2年(1)オ)		【態】単語の活用、助詞や助動詞などの 働きについて進んで理解し、これまでの 学習を生かして課題に取り組もうとしてい る。	
		1	本は世界への扉 天、共に在り 極夜行	1 教科書本文を読み、筆者の生き方 について自分の考えをもつことができ るようにする。 2 P198「本の世界を広げよう」を読 み、読んだ本や、興味をもった本につ いて語り合うことができる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり 方を支える読書の意義と効用について理 解している。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章 を読んで考えを広げたり深めたりして、人 間、社会、自然などについて、自分の意 見をもっている。(O(1)エ)	【態】進んで読書の意義と効用について 理解し、今までの学習や経験を生かして 、ノンフィクションを読んで考えたことを まとめようとしている。	
		1	季節のしおり 冬	・冬の気象にまつわる言葉や、冬の情 景を詠んだ俳句や詩、名文を味わい、 伝統的な言語文化に親しむことができ るようにする。	【知・技】理解したり表現したりするた めに必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙 を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着 目し、情景を想像している。		【態】伝統的な言語文化に関するこれま での学習を生かして、積極的に語感を磨 き、言語文化を大切にしようとしている。	
	1	3	温かいスープ	1 時代背景や筆者の置かれた状況を 捉えながら全文を通読することができる。 2 作者の考える「国際性」とは何かを 読み取ることができる。 3 国際性について自分の考えをもつこ うができる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり 方を支える読書の意義と効用について理 解している。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章 を読んで考えを広げたり深めたりして、人 間、社会、自然などについて、自分の意 見をもっている。(O(1)エ)	【態】人間、社会、自然などについて進ん で自分の意見を持ち、今までの学習や経 験を生かして批評したり考えを伝え合っ たりしようとしている。	
		3	わたしを束ねないで	1 朗読を通して、詩のもつイメージを 捉えることができる。 2 作者の思いを読み取り、自分の可 能性について考えることができる。	【知・技】理解したり表現したりするた めに必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙 を豊かにしている。((1)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読 んで考えを広げたり深めたりして、人間、 社会、自然などについて、自分の意見 をもっている。(O(1)エ)	【態】詩を読んで進んで考えを広げたり深 めたりし、今までの学習を生かして、作 品の価値や自分の可能性について考えを まとめようとしている。	
		2	4	三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする	1 三年間の学びを振り返り、冊子の テーマを決めることができる。 2 冊子の構成を考えることができるよ うにする。 3 冊子を作ることができる。 4 発表会を開くことができる。 5 学習を振り返ることができる。	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要 な語句の量を増し、慣用句や四字熟語な どについて理解を深め、話や文章の中で 使うとともに、和語、漢語、外来語など を使い分けることを通して、語感を磨き語彙 を豊かにする。((1)イ) ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣い を理解し、適切に使っている。((1)エ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状 況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考え がわかりやすく伝わるように表現を工夫 している。(A(1)ウ) ・「書くこと」において、文章の種類を選 択し、多様な読み手を説得できるように論 理の展開などを考えて、文章の構成を工 夫している。(B(1)イ)	【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫 したりし、今までの学習を生かして、文 章にまとめたり、友達の前で発表を聞い て質問したり評価したりしようとしている。
			1	漢字に親しもう6	1 これまでの学習を生かして、練習問 題に取り組むことができる。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢 字に加え、その他の常用漢字の大体を 読んでいる。また、学年別漢字配当表に 示されている漢字について、文や文章の 中で使い慣れている。(知・技(1)ア)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を 読んだり書いたりしようとしている。
		3	3	学習を振り返ろう	1 P225の小説を読み、学習課題に取 り組むことができる。 2 P228の説明文を読み、学習課題に 取り組むことができる。 3 P229のスピーチ原稿を読み、学習 課題に取り組むことができる。 4 P230の図表を用いて、学習課題に 取り組むことができる。	【知・技】 ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣い を理解し、適切に使っている。((1)エ) ・具体と抽象など情報と情報との関係に ついて理解を深めている。((2)ア) ・時間の経過による言葉の変化や世代に よる言葉の違いについて理解している。 ((3)ウ) ・自分の生き方や社会との関わり方を支 える読書の意義と効用について理解して いる。((3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで考 えを広げたり深めたりして、人間、社会、 自然などについて、自分の意見をもてい る。(O(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、自分 の立場や考えを明確にし、相手を説得で きるように論理の展開などを考えて、話 の構成を工夫している。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、場の状 況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考え がわかりやすく伝わるように表現を工夫 している。(A(1)ウ) ・「書くこと」において、表現のしかたを考 えたり資料を適切に引用したりするなど、 自分の考えがわかりやすく伝わる文章に なるように工夫している。(B(1)ウ)	【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今 までの学習を生かしてそれぞれの学習 課題に取り組もうとしている。
	合計		95		評価方法	定期テスト・小テスト・課題	定期テスト・ワークシート・提出物 課題	ワークシート・ノート・授業態度 課題の取り組み・提出物